

## 公開授業（１） 中学校社会科「歴史的分野」

指導者 宮本 英征

日時 2016年10月15日（土） 第1限（9:30～10:20）

場所 第一社会科教室

学年・組 中学校1年B組 42名（男子21名、女子21名）

単元 平安時代を考える～歴史の経験を通して～

指導計画（全3時間）

小単元1「桓武天皇の政治と摂関政治」

小単元2「藤原道長に返歌を送ろう」（本時）

小単元3「藤原道長についての語りを評価しよう」

題目 藤原道長に返歌を送ろう

### 本時の指導目標

- (1) 摂関政治における権力者として藤原道長を説明するだけでなく、道長の平凡さや優しさなどの人間性を踏まえ、肯定的あるいは否定的にそのイメージを判断し、生徒自身の道長像を語るができる。
- (2) 「望月の歌」についての他者の語りを分析することで、道長に多様なイメージが結びつくことに気がつかせる。
- (3) 藤原道長に対するイメージを生徒が個々に判断し、「望月の歌」に対する返歌を作成し、グループで発表する。

### 本時の評価規準（小単元3で実施）

- ① 課題「藤原道長に返歌を送ろう」「そのように返した理由を書こう」
- ② ルーブリック

評価	評価規準の内容
4	藤原道長を肯定的（否定的）に判断し、そのイメージを結びつけて説明できている。
3	藤原道長の、能力の高さ、平凡さや優しさなど学習したイメージを結びつけて説明できている。
2	藤原道長に関する歴史的な事柄に基づいて説明できている。
1	望月の歌に関係する返歌にはなっている。
0	記述なし。

## 本時の学習指導過程

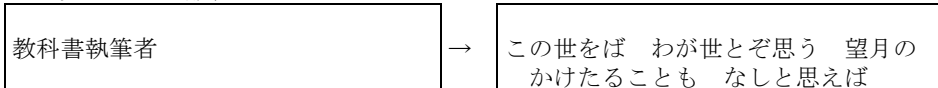
○藤原道長の「望月の歌」の場面A・Bを生徒に検討させ、クラスで何が異なるかを考える。

A「望月の歌」が摂関政治で権力を掌握した藤原道長の思いをあらわすものとして示され、道長の政治能力の高さを評価している場合。

B「望月の歌」が、藤原道長の平凡さをあらわすものとして示され、道長の人間性や運の良さを評価している場合。

○Aの場合の記述として教科書の説明を示し、Bの場面の記述として永井路子『この世をば』を示す。教科書執筆者と永井氏の記述を以下のようにトゥールミン図式で分析させる。

(Aの考え方の道筋)



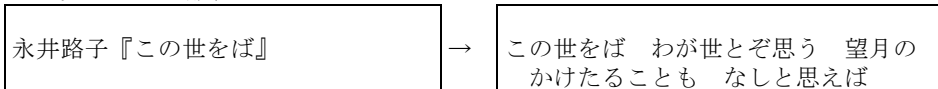
どのような目的で道長の歌を紹介したのか。

摂関政治の最盛期のイメージ

なぜ、そのようなイメージを強調したのか。

藤原道長は政治能力が高い。(権力者である)

(Bの考え方の道筋)



どのような目的で道長の歌を紹介したのか。

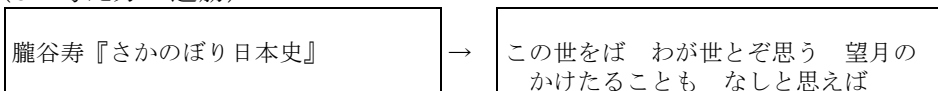
藤原道長が照れながら余興でよんだことを強調するため。

なぜ、余興だったことを強調したのか。

藤原道長は幸運な平凡児である。

○藤原道長をどのように評価するか考えさせる。また、隴谷寿の「望月の歌」の取り上げ方も紹介し、多様な道長像にふれさせる。

(Cの考え方の道筋)



なぜ、道長の歌を紹介したのか。

藤原道長は外戚の地位が長期化することを喜んだことを強調するため。

なぜ、「外戚の長期化」を強調したのか。

藤原道長は息子のためを思う優しい人物だった。

◎藤原実資になって、「望月の歌」に対する返歌を作成し、グループで発表する。

## 本時の授業で使用した資料

資料① 山本博文監修『角川まんが学習シリーズ日本の歴史3』KADOKAWA、2015、pp. 162 - 163.

資料② 古瀬奈津子『摂関政治』岩波新書、2011、pp. 46-48.

資料③ 永井 路子『この世をば〈下〉』新潮文庫、1986、pp. 451-455.

資料④ 【藤原道長出世ゲーム】

隴谷寿『さかのぼり日本史⑨平安 藤原氏はなぜ権力を持ち続けたのか』NHK 出版、2012。

倉本一宏『藤原道長の日常生活』講談社、2013。

土田直鎮『日本の歴史〈5〉王朝の貴族』中央公論新社、2004。

古瀬奈津子『摂関政治』岩波新書、2011、から作成。

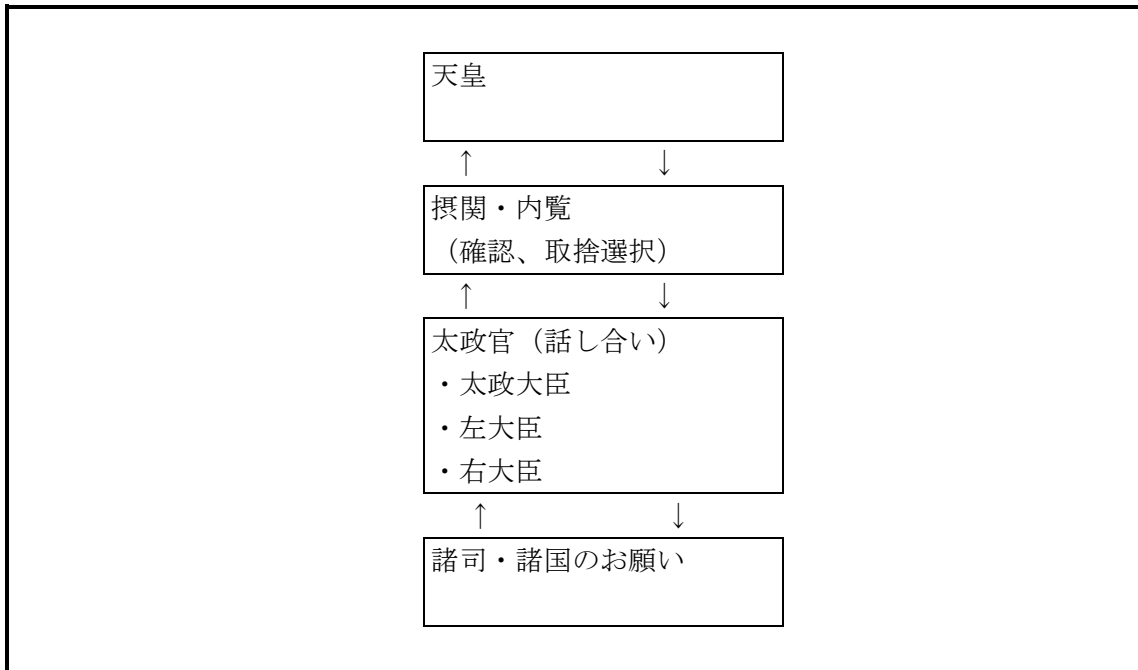
資料⑤ 隴谷寿『さかのぼり日本史⑨平安 藤原氏はなぜ権力を持ち続けたのか』NHK 出版

資料⑥ 藤原道長の年表

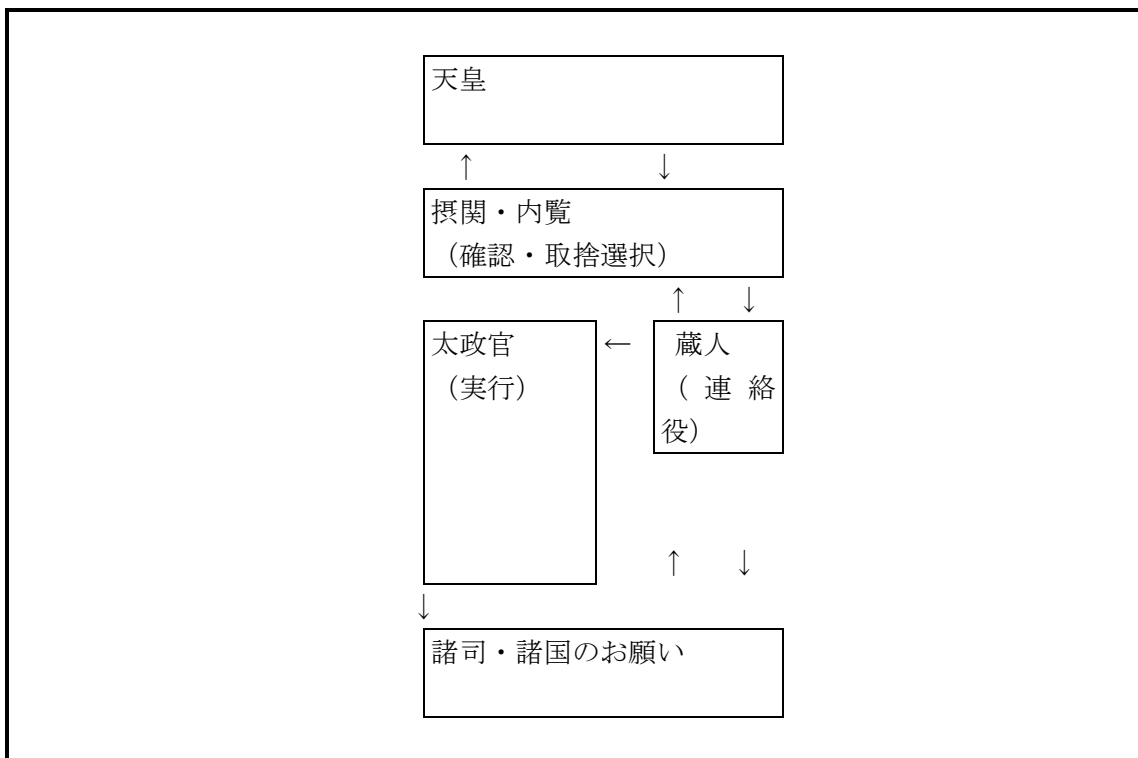
資料⑦ ワークシート

本時の授業で使用したプリント

A



B



<p>◎きもだめしを行う。 【行く場所を選択】 A大極殿（遠い） + 1 B中殿（近い） - 1 Cいかない - 2</p>	<p>◎はしかが流行 【じゃんけん】 勝ち（無事） + 2 あいこ（すこし休む） 0 負け（大病） - 2</p>
<p>◎男子が生まれる 【10人】</p>	<p>◎女子が生まれる 【10人】</p>
<p>◎女子が生まれる 【10人】</p>	<p>◎人が訪ねてくる。 【会う】 安芸の国司が塩→わいろにより + 1 【会わない】</p>
<p>◎新年の天皇への挨拶を行う儀式 A すべての官吏を集める。 B 摂関・関白、大臣などごく一部。 →親密さがまし + 1</p>	<p>◎父が関白となる。 出席番号【10人】 + 3</p>
<p>◎天皇のきさきを決める。 従二位以上 子供（女子）がいる。</p>	<p>◎物忌みの最中に、使者が来た。 会う + 1 会わない - 1</p>

## 事前アンケート

問1 あなたは「藤原道長」をどのような人物だと思うか？

--

問2 あなたは「望月の歌」から道長にどのようなイメージをもったか。

--

## 事前アンケートの自己評価シート

評価	評価規準の内容
4	藤原道長を肯定的（否定的）に判断し、そのイメージを結びつけて説明している。
3	藤原道長の能力の高さ、運の良さ平凡さ、優しさなどのイメージを結びつけて説明している。
2	藤原道長が摂関政治の象徴であったことを説明している。
1	藤原道長が権力者（貴族社会の中心）、豊かであることを説明している。
0	記述なし。

問1に対する評価（            ）

理由
----

問2に対する評価（            ）

理由
----

## 事後アンケート

問1 あなたは「望月の歌」から道長にどのようなイメージをもったか。

問2 「望月の歌」に対してあなたなら、どのような返歌をつくるだろうか。 五・七・五・七・七で和歌をつくってみよう。

【和歌】

【解説】

問3 「藤原道長」をどのような人物だと思うか？

## 事後アンケートの自己評価シート

評価	評価規準の内容
4	藤原道長を肯定的（否定的）に判断し、そのイメージを結びつけて説明している。
3	藤原道長の能力の高さ、運の良さ平凡さ、優しさなどのイメージを結びつけて説明している。
2	藤原道長が摂関政治の象徴であったことを説明している。
1	藤原道長が権力者（貴族社会の中心）であることを説明している。
0	記述なし。

【自分で評価しよう】

問1 に対する評価（            ）

理由

問2に対する評価（ ）

理由

問3に対する評価（ ）

理由

【他の人に評価してもらおう】（評価してもらった人： ）

問1に対する評価（ ）

理由

問2に対する評価（ ）

理由

問3に対する評価（ ）

理由

【班で考えよう】宮本が示した評価規準をより良い規準にする場合、どのように改善したら良いだろうか。また、評価「5」「6」など、より高い規準を考えてみよう。

【授業の感想、自分で評価し、自分たちで規準を考えてみた感想】



## 授業者による「反省と課題」

本時の指導目標の（１）と（２）は、ほぼ達成することができた。しかし、目標（３）「藤原道長にするイメージを生徒が個々に判断し、『望月の歌』に対する返歌を作成し、グループで発表する」は十分に時間をかけることができず、返歌を作成する段階で授業が終了した。また、「望月の歌」に対する返歌を作成する作業学習が生徒にとって唐突であり、話し合いが不十分であった班が見受けられた。最初の導入から返歌をつくることを生徒に意識させて、道長のイメージを検討するように改善したい。

## 研究協議の概要

（問）自分の言葉で藤原道長を語ることが授業の目的であったようだが、それはイメージで語ることができればよいのか？ 提示された資料が、事実というよりも、小説や漫画からくるものであった。イメージで語ることの良さは何なのか？

（問）要項のなかに、社会科の目的として、「学びの質を高める」「地理や歴史に対する見方を変えて、社会に対する見方・考え方を深める」と示されている。今日のこの授業で、藤原道長に対するイメージは深まったかもしれないが、見方・考え方という点で、どこが深まったのか？ 返歌の中に、このようなキーワードがあれば深まった、と言えるような何かを示していただきたい。

（答）歴史学的に見て正しい事実というのではない。教科書も誰かが書いているわけで、それは事実とは言えない。小説も事実ではないが、教科書も事実ではない。小説も漫画も教科書も誰かが書いている。生徒も、その誰かになれると考える。歴史に事実はない。事実として書かれているものにも、すでに解釈が含まれている。

（答）教科書で学習した内容も、一つの見方ではなく、さまざまな見方ができる。書かれてある内容は、なんらかの価値観と結びついているものである。それをすべて真実と思いつまわず、反省的にみていくことのできる能力をつけようと考えた。自分ならばどのように語るかを考えていける人間を育てようとした。

（問）グループで学習させたいが、そのメリットや反省点があれば示して欲しい。

（答）「望月の歌」に対して返歌を書かせることについて、個人でやらせ、そのあとに班で、グループで議論させようとしたが、歌を個人で作らせるのは難しいと思い、グループで作らせた。個人でできれば個人でやらせてもよい。アクティブ・ラーニングだからと言って、必ずしもグループ学習にする必要はない。

（問）どのようなことを書かせたかったのか、答えとして用意していたものは何か。何を評価しようとしたのか？

（答）道長に対してどのようなイメージを持ったか。どのような返歌をつくったかで評価する。観点別でいうと、思考・判断が主である。

（問）返歌を書かすという指示であったが、返歌にとまどったのではないかと。「あなたがもつ道長のイメージはどのようなものか」と問う方がよかったのでは？ また、最低限、歴史で教えるべきこととして、事実は必要なのではないかと。本来、教えるべきことをはずしている。道長に対する見方が、摂関政治をおこなった政治家から、「単に運の良い人」にイメージが変わっただけでも良いと考えるならば、何もアクティブラーニングの授業にする必要はない。

（答）内容的に不十分という指摘があったが、教科書にあることを事実としてそのまま暗記的に教えることは避けたい。教科書の言葉の背景にあるものを考えさせたい。教科書の記述の

背景にあることを考えさせたい。

(問) 資料をもとに分析したり判断したりすることは社会科の授業としてあってよいが、思いつきで意見を言い合うことが、本当に社会科に求められることなのか。小説や漫画の書き手をもとに考えることが、本当に思考・判断になるのか。

(答) 道長を傲慢と言って人の意見の背後にあたるものを考えさせたい。それは事実とはよべない。

(問) 歴史の授業で、歴史上の人物の評価をすることが、本当に求められるのか。それを社会的思考・判断とよべるのか。

(答) 日常の社会の中で、人物判断を常におこなっている。人の評価は難しいが、あえて授業に持ち込むことも意義あることであると考えた。

(問) アクティブ・ラーニングということで、外形的な活動にこだわらないと言いながらも、グループで活動させ、和歌をつくらせていた。グループワークの機能や目的は何か。

(答) アクティブラーニングの意義は認めるが、這い回るような活動主義にはしたくない。和歌をつくる作業は難しいと思い、協同学習で今回は試みた。必ずしも、アクティブラーニングにグループワークや協同学習が必須ではなく、学びを深めることになれば、他のやり方でもよい。

(問) 今日は、必ずしもこだわらないと言いながら、グループワークが中心であった。個の活動や個の考えが見えなかった。自分の考えとグループの他の人との考えを比較してすることが必要ではなかったか。

(答) グループワークの成果を、もう一度、個にもどして租借させたり吟味させたりすることが必要であった。

(問) ルーブリックの評価規準の作り方を教えてほしい。

(答) ルーブリックの構成原理については、「事実を踏まえて感覚的に考える段階」、「教科書レベルの摂関政治の内容の習得の段階」、「教科書以外の語りも踏まえて解釈できる段階」、「自分なりに道長像をつくれる段階」とした。

(問) グループで話しあわせる授業であったが従五位下のような専門的な用語も出てきた。基礎的な知識を授業でどのように扱われているのか

(答) 教科書にある知識を使って答えられる発問による授業もおこなっている。

(問) そのような授業では、評価はどうしているか？

(答) 単に事実答えさせるだけでなく、なぜというような問いをできるだけ出して答えさせている。

(問) 生徒の学びの質を高める主体的な活動とは何か？

(答) 先生の言ったことに対して違う考えで反論できれば、主体的な活動と考える。